

中田かわら版 1月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

文化の継承と創造 次世代につなげよう！

中田地区経営委員会
委員長 井上昌司

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃は、当委員会の取り組みにご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。昨年は、伝統の祭りや地域に根差した行事が、漸く活発に行われ若い世代から高齢者までが一斉に触れ合えて、ふるさと中田を肌で感じられた一年でした。

地域を良くするには、住民一人ひとりがちょっとした思いやりと人を喜ばせようとする気持ちを持つことがとても大切です。「中田かわら版」やプロジェクト活動を通して、次世代に繋げたくなる豊かな文化を一人でも多くの方に感じて貰いたいと願っています。また、次世代に繋げるには、これが本当に大事だとわかるだけの大人の文化が必要になります。当委員会では、次世代から見てとても立派で魅力的な目標を掲げ、自ら範を示し活動しています。

一昨年のマーチングバンド地域移行プロジェクトではその目標を達成し、こども達の好きな音楽が引き続き出来、今夢を持って頑張っています。また、中田の川と森を守ろうと活動している中田クリーンアッププロジェクトでは、「なかだ村岡川水辺愛護会」を発足して次世代に誇れる自然環境整備に取り組んでいます。ところが、大所帯の中田の町では様々な活動の情報が共有されにくく、昨年「分野連携型文化構想プロジェクト」を新たに立ち上げました。情報発信活動としてネットを利用した「中田編集局」を創設する予定です。誰もが発信者になれる「住民ダイレクター」を育成することで、自分との共感者の輪を広げられ地域活性化に繋がりたいと考えています。

素晴らしいスポーツ公園に

そして、「深谷通信所跡地構想プロジェクト」では、今まで長く審議してきたスタジアム付競技場・サッカー場・硬式野球場が泉区深谷通信所返還対策協議会に反映され、最新の計画図面が出来上がりました。次世代に誇れる素晴らしいスポーツ公園になりそうです。

また、中田の歴史に興味を持つことによって、この町が一つの共同体としての大きな家族のように見え、ふるさと中田を更に感じさせてくれます。先人たちの思いが伝統的な文化となって受け継がれ、その受け継いだバトンをしっかりと次世代に渡すことも今、私達



の役割ではないかと思ひます。本年も引き続き記事にある情報をより詳しく知りたい方は、踊場地区
致します。（通信所跡地将来図が発表されました。次号に詳細記事を掲載します）
TEL 801-2114 FAX 801-2923



地域防犯に貢献 宮の台の「夜回り」 河内満明

宮の台町内会で永年続いている夜回りの人たち取材した。
現在の形になってから欠かさず続けてこられたその行為に敬服。
今、夜回りの会に正式の呼び名はない。固定したメンバーもいない、つまりその時に集まった者が拍子木を叩いて町内を見廻っている。

きっかけは子どもたちの活動

小学生の間は「子供会」があって、学校や親子の間の連携もあるが
中学に入った途端それがなくなりなんとなく宙ぶらりんな感じの子が
目に付くようになった。（今の中学生は部活だ塾だ宿題だ、など多忙の
様）

そんな時 PTA 役員経験者の内海氏や百武氏らがこの子らに社会とのつな
がりを持たせたいと考えたのが夜回りだったという。何かの災害時には最も元気な中学生が頼り
になること、さらにこの少年たちが間違っただけを向かないようにとの気遣いがあった様だ。夜回りは
1984年（昭和59年）12月1日スタートし翌年3月まではほぼ毎晩拍子木を叩いて回った。その後は
メンバー入れ替わりながら 1997年まで頑張ったが、部活や塾などが忙しくなり、子供たちの参加
が無くなってしまった。町の役に立つという志だけで 13年間よく続いたが、若者たちには飽きも必要
だったかもしれない。（この間にかかわった少年たちはもう 50歳代の壮年期になります。）

折も折、覗き見事案が発生した。不審を感じて誰何し、事なきを得たが防火・防犯の大切さを再
認識したのだ。当時町内会役員だった良知氏が危機感を持ち周囲に声をかけ夜回りは継続された。
一時は2人きりになったが、一人になっても俺はやると互いに言い合って続けてきた。

地道な努力の甲斐あってメンバーも増え 2013年からは月の第1週を大外回りに、第3週を内回
りのコースにと決めて年間行事化した。現在も 4~5名の参加がある。宮の台同好会のメンバーが
主体で・・・

40年続いても約束事のない自主活動

- 宮の台は何しろ坂が多い、冬は特に膝がネ。実際に足腰の故障で抜けた人が多い。
- メンバーの高齢化が進んで今後がネ。苦労と思った事は無いが後継者をどうするかが課題だ。
- 効果があったかどうかは知らないがこの数十年ボヤも空き巣も起きていない。
- 以前は拍子木と声出しの両方やっていたがコロナ化以来拍子木だけで回っている。これでも抑止効果はあるとおもう。そう思って続けている
- 例年暮れには警察官に同行をお願いしている、その時に参加者が少ないとやや気まずい思いになる。

その時の講評として 「音を出すだけで効果がある」とのお話をいただいてもいる。
インタビューを終えて考えた。こんな大事なことを 40年間も続けながら約束事が何もない。しかも表立っての募集もない。この紙面で私はお節介をしたい。宮の台で夜回りに参加してみようかな、と思った方は第1、第3土曜日の20時30分までに会館前に来てください。年齢・性別を問いません、一度体験してみてください。



夜回りを長年続けている良知さん=左と川村さん=右

編集後記

神奈川新聞 6月13日の20面に、県民功労者表彰の受賞者が掲載された。「産業・経済」分野で公共の福祉に貢献し、特に業績が優れた人を県が顕彰するものである。
中田連合自治会副会長の岩城孝子さんがその人。小柄なのに声は透き通り遠くまで届き優しさに溢れている。これからも「今できることを一生懸命に取り組む」という思いで地域貢献に取り組んでくれる人です。
T.松本